経済人 トップインタビュー

次世代エネルギーに力

相馬ガスホールディングス（南相馬市）

渋佐　克之社長



しぶさ・かつゆき　南相馬市出身。原町高卒、慶応大法学部中退。1993（平成５）年相馬ガス入社。県公安委員長、原町商工会議所副会頭、県中小企業家同友会相双地区会長を務める。市内の自宅で妻と２人暮らし。57歳。

―水素エネルギー事業に乗り出します。

「浜通り初のスマート水素ステーション（ＳＨＳ）を九月に稼働するため準備をしています。相双地方に燃料電池自動車を走らせます。一基で一日、三～五台分を供給できます。水素エネルギーの認知度を上げ、インフラ整備にもつなげたい」

―なぜ、水素エネルギーなのですか。

「入社以前から究極のエネルギーとして水素を取り上げた書物を読んでいました。『いつかは水素』との思いがありました。しかし、なかなか機会が来ませんでした。東日本大震災で再生可能エネルギーが注目されるようになります。水から作り、水に戻る水素エネルギーは大きな話題となりました。今がチャンスと考え、三年前、本格的に事業に乗り出す準備に入りました」

―地域エネルギー会社としての沿革は。

「昭和三十五年、父を含む十数人で相双地方唯一の都市ガス会社を設立したのが最初です。社名は創業者の中に当時の旧相馬藩相馬家当主の弟がおり、名前を頂いたそうです。現在はホールディングス化し、相馬ガス、相馬市ガス、エネルギー生活市場を子会社として運営しています。私は平成十八年に相馬ガスの社長に就き、震災前の平成二十二年、現体制のホールディングス社長に就任しました。家業そのものが地域貢献事業と考え活動しています」

―今後の展望を。

「地域のエネルギーインフラの拠点とするため、直営のガソリンスタンドには既に計三基の電気自動車急速充電器を設置しました。ＳＨＳ事業に乗り出すことで夢や構想が広がっています。燃料電池自動車の登録台数が増える傾向が確認されれば本格的な商業ステーションも視野に入れたい。次世代のために、今できることに精いっぱい取り組んでいきます」

聞き手＝論説委員・南相馬支社長　関根英樹



水素エネルギー事業に乗り出す相馬ガスホールディングス

メモ　▶本社所在地＝南相馬市原町区青葉町２丁目３▶事業内容＝都市ガス、簡易ガス、液化石油ガス販売、ガス石油機器販売、石油販売など▶資本金＝9500万円▶設立＝昭和56年３月▶連絡先＝0244(22)4101

掲載日:2017/06/21　面名:負けない　ページ:022　　福島民報 :本紙 :朝刊